

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 稲盛アカデミー・講師

氏 名: 劉美玲

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
研修先 (大学・国・都市名)	ベトナム
研修期間	令和5年8月26日 ~ 令和5年9月2日
<p>【研修の目的・概要】</p> <p>本研修の目的は、ベトナムの歴史、文化、社会を直接体験し、様々な立場で国の発展に取り組んでいる現地の人々と直接交流することにより、世界に共通する進取の精神に対する理解を深め、グローバルな視点を涵養し、コミュニケーション能力および問題解決能力を向上させることにある。</p> <p>研修の概要は下記の通りである。</p> <p>ハノイ旧市街地、文化施設(最古の大学文廟、博物館)見学 琉球ガラス製作体験、シルク村・バッチャン焼き物村見学、オーケストラ演奏会参加 ハノイ周辺の農村および工芸村訪問と現地中学校での学生交流 チャンアン複合遺産、HoaLu遺跡見学 ベトナム社会科学院、JICA事務局訪問 京セラベトナム、キューデンイノバテックベトナムおよびその関連会社(Weather plus)訪問</p>	
<p>【研修の成果】 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>ベトナム企業(Weather plus)、ベトナムに進出している日本企業(京セラベトナム、ベトナムキューデンイノバテックベトナム)やベトナムで活動しているJICA事務局への見学では責任者との交流を通じて、ベトナムの発展に取り組んでいるベトナム人と日本人自らの経験から高い目標に挑戦し、困難に負けずに努力し続ける「進取の精神」を学ぶことができた。京セラベトナムのフジハラ社長から「クリエイティブな仕事」についてご講話いただき、これからの時代の生き方について多くの学生に深く考えさせた。ベトナムキューデンイノバテックベトナムの相良さんは挑戦することの大切さについて教えていただいた。JICA事務所の職員からは、海外で活動する際の困難さとそれを克服するための取り組みなどについてお話しいただいた。これらの講話により学生も「進取の精神」に対する理解が深まった。</p> <p>ハノイの市街や文化施設、文化遺産の見学、現地の大学生やベトナム社会科学院の研究者たちとの交流を通じて異文化を直接体験し、ベトナムの歴史・社会・文化に対する理解が深まり、異なる価値観の受容やグローバルな視点の涵養につながった。特に、ベトナム社会科学院の研究者から、ベトナムの教育現状や南北文化の違い、およびこれらの現状や違いが形成される深層的な原因についてまで説明していただき、学生のベトナムに対する理解が深まった。また、異なる価値観・考え方・行動様式に対する理解・受容が、多くの学生にとって自分自身のこれまでの生き方や姿勢、行動を見直すきっかけにもなった。さらに、さまざまな背景をもつ人々との交流や、グループワークを通じて、学生の自信、思考力、コミュニケーション能力および問題解決能力を向上させた。</p>	
<p>【今後の課題】</p> <p>過去に何度か現地の氷が原因で体調を崩した学生がいたため、今年も、学生の体調管理のために、現地の氷に気をつけるように研修の最後まで気を緩めることなく注意喚起していた。結果、体調を崩した学生はいなかった。今後も、安全と健康に配慮しつつも、意義のある研修になるように努めていきたい。</p> <p>また、今年にはさらに異文化交流を増やすために、ベトナムの大学を訪問し多くの大学生と交流する機会を設けるように色々と現地のスタッフを通じて調整していたが、タイミングが合わず叶わなかった。今後は引き続き大学訪問の機会を調整し、もっと濃い研修となるように努めていきたい。</p>	